

公認審判員及び競技者の皆様へ

新潟県バドミントン協会 審判委員会

日本バドミントン協会

「2022～2023BADOMINTON 競技規則（諸規定集）」における変更・確認点のお知らせ
抜粋です。

細かな点は、「2022～2023 BADOMINTON 競技規則（諸規定集）」（日本バドミントン協会発行：通称赤本 1冊 1000円）をご覧ください。

解説付きでわかりやすい3級・準3級向けの「公認審判員資格検定会講習会ルール教本」（日本バドミントン協会発行：通称緑本 1冊 600円）もございます。

※購入希望の方は、所属されている各支部バドミントン協会に、お申込みください。

以下、変更・確認点

重要な部分のみ、載せてあります。下線部・囲み線部にご注意ください。

「競技規則」



第16条 プレーの継続 **振舞い**、罰則

不品行な振舞いが、振舞いに変更されました。

第5項 アドバイスとコートを離れることに関して

(1) シャトルがインプレーでない（第15条参照）場合で、プレーヤーがサービスとレシーブのために位置につくまでの間に限り、プレーヤーはマッチ中、アドバイスを受けることができる。

アドバイスができる時間が特定されましたが、プレーの遅延は認められません。

インプレーとは、サービスが始まってラリーが終わるまで。第15条参照

第15条 シャトルがインプレーでない場合

次の場合のシャトルはインプレーではない。

第1項 シャトルがネットやポストに当たり、打者側のコート面に向けて落ち始めたとき

第2項 シャトルがコート面に触れたとき

第3項 「フォルト」または「レット」となったとき

(2) プレーヤーは本条第2項のインターバルを除き、主審の許可なしに、マッチ中、コートから離れてはならない。もしそのような行為をした場合は、遅延行為とみなされる。

警告 イエローカード

プレーヤーの遅延行為における主要因が、コーチによってもたらされていると主審が判断したときは、レフェリーを呼ぶ。

第7項 違反に対する処置

(1) 本条第2項、第4項(1)、第5項(2)、第6項のいかなる違反に対しても、主審は、次の処置をとる。

① 違反したサイドに警告をする。 イエローカード

② 一度警告を受けた後、再び違反した場合は、そのサイドをフォルトにする。 レッドカード

③ 目に余る振舞い、執拗な違反については、その違反したサイドをフォルトとする。

インターバル
遅延行為
コートから離れる
シャトルに手を加える
不適切な態度言動
不品行または不快な行動

(2) 本条第7項(1)②及び③に関する違反については、主審はフォルトを宣した後、直ちにレフェリー(競技役員長)に報告する。レフェリー(競技役員長)は違反したサイドをそのマッチから失格させることができる。

インターバルの遅刻は、一発フォルトではなく、警告(イエローカード)からになりました。程度によっては一発フォルト(レッドカード)になる場合もあります。

程度によっては、一発フォルト(レッドカード)もあり得るが、判断に迷うときは、レフェリーを呼んで確認するとよい。

「審判用語」 国際大会と同じコールになるように

2. マッチの開始 (Start of the Match)

2.1. 紹介とアナウンス (Introduction and Announcements)

2.1.1. シングルス 個人戦 (Singles Tournament)

「レイディース アンド ジェントルメン」

「オンマイライト Xさん A(所属名)」

「アンド」 「オンマイレフト Yさん B(所属名)」

(言いながら、右、左を指し、Xさんがサーバーの場合)

「Xさん トゥサーブ ラブオール プレー」

2.1.2. シングルス 団体戦 (Singles Team Tournament)

「レイディース アンド ジェントルメン」

「オンマイライト A (所属名) リプリゼンティッド バイ Xさん」

「**アンド**」 「オンマイレフト B (所属名) リプリゼンティッド バイ Yさん」

(言いながら、右、左を指し、A (所属名) がサービングサイドの場合)

「A (所属名) トゥサーブ ラブオール プレー」

2.1.3. ダブルス 個人戦 (Doubles Tournament)

「レイディース アンド ジェントルメン」

「オンマイライト Wさん A (所属名) **アンド** Xさん B (所属名)」

「**アンド**」 「オンマイレフト Yさん C (所属名) **アンド** Zさん D (所属名)」

(言いながら、右、左を指し、Xさんがサーバーの場合)

「Xさん トゥサーブ トゥ Yさん ラブオール プレー」

(パートナー同士が同じ所属の場合、所属名はダブルスペア2人の名前の後に一度だけアナウンスすればよい。

例 「オンマイライト Wさん **アンド** Xさん A (所属名)」

2.1.4. ダブルス 団体戦 Doubles Team Tournament

「レイディース アンド ジェントルメン」

「オンマイライト A (所属名) リプリゼンティッド バイ Wさん **アンド** Xさん」

「**アンド**」 「オンマイレフト B (所属名) リプリゼンティッド バイ Yさん **アンド** Zさん」

(言いながら、右、左を指し、A (所属名) がサービングサイドで、Xさんがサーバーで、Yさんがレシーバーの場合)

「A トゥサーブ Xさん トゥ Yさん ラブオール プレー」

サービスに関連して

サービスジャッジがサービスフォルトをとった場合に主審がするコール

4. サービスフォルトのコールの説明 (Explanation for Service Fault Calls)

4.1. 「サービスフォルトコールド トゥハイ」

シャトル全体が 1.15m以下でない

“Service fault called, too high.”

4.3. 「サービスフォルトコールド フット」

ラインクロス・足が動いた

“Service fault called, foot.”

4.4. 「サービスフォルトコールド コンテニューアスモーション」

“Service fault called, continuous motion.”

ラケットの前方への動きが継続されていない

4.5. 「サービスフォルトコールド ベ이스オブシャトル」

“Service fault called, base of shuttle.”

シャトルの台を打っていない

4.6. 「サービスフォルトコールド アンデューディレイ」

“Service fault called, undue delay.”

サービスを不当に遅らせた

4.7. 「サービスフォルトコールド シャトルミスト」

“Service fault called, shuttle missed.”

シャトルを打ちそこなった

4.8. 「サービスフォルトコールド レシーバーフォルトコールド プ

レー ア レット」

サーバーとレシーバーの両方がフォルトをした

“Service fault called, receiver fault called, play a let.”

主審がサーバーのフォルトをとった場合の主審コール

「フォルト トゥハイ」

「フォルト コンティニューアスモーション」

「フォルト ベ이스オブシャトル」

「フォルト シャトルミスト」

主審がサーバーあるいはレシーバーあるいは両方のフォルトをとった場合の
主審コール

4.9. 「フォルトレシーバー フット」

“Fault receiver, foot.”

4.10. 「フォルトサーバー フット」

“Fault server, foot.”

4.11. 「フォルトレシーバー アンデューディレイ」

“Fault receiver, undue delay.”

4.12. 「フォルトサーバー アンデューディレイ」

“Fault server, undue delay.”

「フォルト プレー ア レット」

第4項 サービスフォルトの違反の種類を示す指定の合図は次の図のとおり。



競技規則第9条第1項、(3) (4)の違反
サーバー及びレシーバーが、斜めに向かい合ったサービスコート内に立っていないかたたり、サービスコートの境界線に触れていたり、または、両足の一部分がサービスがなされるまで、その位置でコート面に接していなかったとき。



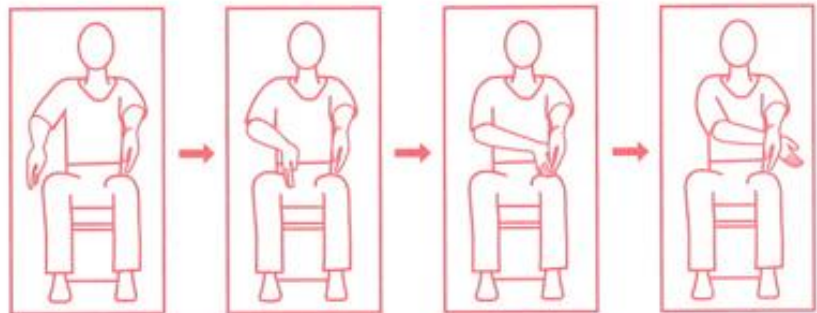
競技規則第9条第1項 (5)の違反
サーバーのラケットで最初にシャトルの台を打っていなかったとき。



競技規則第9条第1項 (6)の違反
サーバーのラケットで打たれる瞬間にシャトル全体が必ずコート面から1.15m以下でなければならない。



競技規則第9条第1項 (7)の違反
ラケットの前方への動きを中断したとき。



競技規則第9条第1項 (8)の違反
サーバーがサービスをしようとしてシャトルを打ちそこなったとき。

「公認審判員規程」

第5条

第2項 マッチ開始前（競技区域内）

練習時間の測定方法について

(2) トスの後、出来る限り早く審判台にすわり、ストップウォッチで以下の必要事項の計測を始めること。

- ① ウォームアップの時間を計測する。レフェリー（競技役員長）により別の指示がある場合を除いて、ウォームアップは主審が審判台にすわったところから始まり、マッチ開始時の「(ラブオール) プレー」のコールで終わる。その際、主審は「レディー トゥ プレー (マッチ開始の準備をしてください。)」をコールし、プレイヤーがマッチ開始の準備をするように指示する。

※ **練習時間という括りではなく、ウォームアップ時間という括りになった。ウォームアップ時間の確認と選手への周知が必要。**

第14項 マッチ中のケガまたは病気

(1) マッチ中のケガまたは病気には慎重かつ適切に処置しなければならない。主審はこの問題についてできる限り早く決断するよう努めなければならない。もし、必要ならばレフェリー（競技役員長）を呼ぶ。レフェリー（競技役員長）は、医療役員やその他の人をコートに呼ぶ必要があるかどうかの判断を下す。医療役員は、プレイヤーを診察し、プレイヤーにケガや病気の状態を知らせる。プレーの遅延を不当に引き起こす如何なる医療処置も認めてはいけない。ただし、医療役員は、ケガ等により処置が必要なプレイヤーに対してはインターバル中を除き、マッチ中、1度だけスプレーを使用した処置をすることができる。主審はこのケガ等の処置について時間を計測すること。

※ **マッチ中、1度だけスプレーを使用した処置をすることができるようになりました。（インターバルを除く）**

第16項 **振舞い**

(10) **マッチ前** 競技場内でプレイヤーが振舞いを行った場合、主審は、本項(3)～(5)に従って適切に処置するものとする。しかし、この件に関する主審の処置は、マッチのスコアに何の影響を与えるものではない。しかし、警告(イエローカード)、フォルト(レッドカード)を宣した場合は、マッチ開始後の違反に影響を与える場合があることを留意しておくこと。

(11) **マッチ後** 競技区域内でプレイヤーが振舞いを行った場合、本項(3)～(5)に従って適切に処置し、すぐにレフェリー(競技役員長)に報告しなければならない。

※ **マッチ前・マッチ後の振る舞いも、警告(イエローカード)・フォルト(レッドカード)・失格(ブラックカード)の対象となる。対応はマッチ中と同じ。**

「大会運営規程」

第24条 プレーヤーまたはコーチの着衣上の背面、広告、ロゴなどの表示に関する取り決めについては、以下のとおりとする。

- ※ プレーヤーと同一の上衣及びチームユニフォーム等を着用する場合は、コーチも、対象になります。
- ※ ウェア（上衣）前面・背面上のプレーヤー名・チーム名・スポンサー名・都道府県名等の表示や文字の大きさ・ウェア（下衣）のロゴの数などの取り決めに注意。
必ず、大会要項や連盟の取り決めを確認してください。

(10) 本条でいうコーチとは、監督、コーチ、そのほか大会参加者（チームのそのほかのプレーヤーなど）など、マッチ中に、コート競技区域内にあるコーチ席に座る可能性のある者を指す。

関連して、「公認審判員規程 第5条 12項（8）

（8）コーチは、マッチにふさわしい服装で臨むこと。

- ※ ウェア（上衣）前面・背面上のプレーヤー名・チーム名・スポンサー名・都道府県名等の表示や文字の大きさ・ウェア（下衣）のロゴの数などの取り決めに注意。
必ず、大会要項や連盟の取り決めを確認してください。
- ※ プレーヤーはマッチにふさわしい服装（審査合格品）で。
- ※ コーチはコーチにふさわしい服装であり、プレーヤーにふさわしい服装ではないので、審査合格品を着ていればよいとはならない。
- ※ 七分丈の長ズボンはレフェリー判断とするが、基本的には認められない。バミューダやショートパンツ・ジャージ等も認められない。
Tシャツは認められないが、チームTシャツ・当該年度の大会記念Tシャツ・チームユニフォームは、認められている。